

政務活動費活動報告（視察）

- (1) 視察先：
福井市
- (2) 参加者：
山田多津子
山内善男
- (3) 日時・場所：
2014年11月7日（金）福井市役所

【1. 視察目的】

滋賀県で2024年（平成36年）に開催が予定されている国体の主会場を彦根総合運動場（彦根市）とすることが正式決定となり、国体を開催するに当たっての主会場を含めた全般的な構想、課題が出てきます。今後、彦根市として財政負担や近隣市町との調整等が必要になってきます。

2018年（平成30年）に国民体育大会を開催される福井市の国民体育大会に向けての準備状況や、取り組み内容と課題等について、担当課である福井市教育委員会事務局の国体・障害者スポーツ大会推進室に調査を行いました。

【2. 調査・質問項目】

国民体育大会準備について

- ① 国体開催における県の体制としての体制の概要は
- ② 主会場の施設概要と整備状況、特に県と市の財政負担について
- ③ 主会場周辺のアkses道路等の整備についての状況
- ④ 国体開催を契機とした、周辺の整備計画の有無、また、その県と市財政負担割合
- ⑤ その他

以上の質問項目を事前に担当課に送付し、その内容に沿って回答いただき、さらに詳細な部分について、調査・質問を行いました。

【3. 考察】

43年ぶりの2巡目の国体が、彦根総合運動場を主会場とし、開催されるに当たりこのイベントを一つの大きな契機として、スポーツ振興はもとより青少年の健全育成、彦根市を中心とした琵琶湖東北部の活性化・振興の大きな起爆剤になることを願っております。しかし、主会場整備は滋賀県が主体となって取り組む事にはなっていますが、開催そのものは10年先とはいえ、用地の買収を含めたハード整備には相当な時間を要し、会場となるメインスタジアムやサブトラックなどを新しく建設するため、現存していた施設を解体したり、新たに土地を拡大し、スペースの確保が必要になってきます。

福井市も2巡目の開催であり、すでに県の施設として、総合グラウンドや体育

館・野球場・テニスコート・プールがあり、今後開催条件に合わせた整備が県事業で進められています。

福井市では競技開催が14種目になり、会場整備は開催市が責任を持つことになっており、「競技施設整備費補助金要綱」に基づき、2分の1の負担割合で、国からの補助金は上限が1億円を限度に整備することとしています。

福井市としての大きな課題は、国体関係者の宿泊施設の確保に苦慮しているとのことでした。宿泊先は原則開催市内とされており、ホテルや旅館だけでは対応しきれないことは明らかであり、市内の保養所や研修施設、個人宅への民泊も検討中とのことでした。

彦根市では、メインスタジアムの土地の確保や体育館整備、周辺道路整備等々の課題が山積しており、第79回の国民体育大会の開催に県の試算によると事業費総計は181億8,000万円ほどとされていますが、開催市の彦根市への財政負担はどれだけ課せられてくるのか、市民生活に大きな影響を及ぼさない手法で実施されるように、今後の「彦根総合運動公園整備計画検討」を注視していく必要があると思いました。